

各 位

会 社 名 イ マ ジ ニ ア 株 式 会 社

代表者の役職名 代表取締役会長 兼 CEO 神藏 孝之

(コード番号: 4644・JASDAQ)

問 い 合 わ せ 先 取 締 役 兼 CFO 中根 昌幸

(TEL: 03-3343-8911)

## NTT ドコモとの共同事業「10 M TV オピニオン」 サービス拡充と dメニュー™ への提供開始に関するお知らせ

～著名な有識者の叡智を凝縮した「生の声」を制限なく配信する新しい教養メディア  
～過去アーカイブ含む全講義が見放題となる dメニュー版公開。利便性の高いアプリも近日公開

イマジニア株式会社（東京都新宿区、代表取締役会長 兼 CEO 神藏孝之）と株式会社 NTT ドコモ（東京都千代田区、代表取締役社長 加藤薫）は、共同事業として著名な有識者の叡智を凝縮した「生の声」を伝える新しい教養メディア「10 M TV オピニオン」を、NTT ドコモが運営するスマートフォン向けポータルサイト「dメニュー™」向けに3月17日より提供開始します。

本サービスは、前東京大学総長の小宮山宏氏（座長）をはじめ、一流の識者を多数招聘し、政治・経済・国際情勢・歴史・ビジネスなど、社会人やビジネスパーソンが今把握すべき多岐にわたる分野について、本格的で分かりやすい講義をスマートフォン・タブレット上で提供するサービスです。

この度配信する dメニュー向けサービスでは、本年2月に先行して提供開始した「スゴ得コンテンツ™」向けの内容に加えて、過去の講義アーカイブも含めたすべての講義を閲覧できるほか、スマートフォン端末への講義映像のダウンロードに対応し、通信環境無しでスムーズに講義視聴が可能となるなど、利便性が向上するアプリも4月上旬目途に利用可能となります。アプリではこの他、再生速度の調節機能の実装も予定しています。

また、dメニューへのサービス提供にあわせ、近日中にコロンビア大学教授ジェラルド・カーティス氏、衆議院議員前原誠司氏、ほか各界で活躍する方々を講師に加え、100以上の講義配信を予定しています。

### ■本サービスの特徴

・座長 小宮山宏氏をはじめ、東京大学名誉教授の山内昌之氏、慶應義塾大学大学院教授の曾根泰教氏、千葉商科大学学長の島田晴雄氏、東京大学大学院教授の伊藤元重氏、植田和男氏、前内閣総理大臣の野田佳彦氏、文部科学大臣の下村博文氏、元外交官の岡崎久彦氏など、2014年3月までに約25名の講義100タイトル以上を収録。今後も情勢に応じて随時追加。

・経営者やビジネスパーソンはもちろん、学生にも必要な知識・教養を提供。時事的な話題も取り入れ、玉石混淆の不確かな情報が氾濫する現代の道標として、一流識者による確かな解説を提供。様々な論点について多面的な観点で講義をラインナップ。

・講師は、学者、作家、評論家、政治家、経営者、医師など、多様なバックグラウンド、分野から厳選。特定のテーマについて複数の講師の講義をまとめて配信する特集も展開。

・配信講義はすべて撮り下ろし。講話の「意図的な編集」は一切行わず、講師の「生の声」を配

信。他メディアでは聴けない、ここだけの内容も多数収録。

- ・ 講義時間は 10 分程度と短時間に設定。時間や場所を選ばず最新の講義を受講可能。
- ・ 講義には書き起こしのテキストや、ビジュアルで理解を助ける資料も必要に応じて配信。講義映像を見ながら、同時にテキスト・資料を閲覧できるほか、講義音声のみ聴くことも可能。

本サービスでは、これまで十分に存在していなかったモバイルファーストの良質な教養コンテンツの提供を進めるとともに、メディア露出や知名度にとらわれない、真の識者が情報を発信する場の創出を目指します。

#### ■ サービス概要（月額版）

サービス名称：10 M TV オピニオン（テンミニッツテレビ オピニオン）

ご利用料金：月額使用料 525 円（税込）

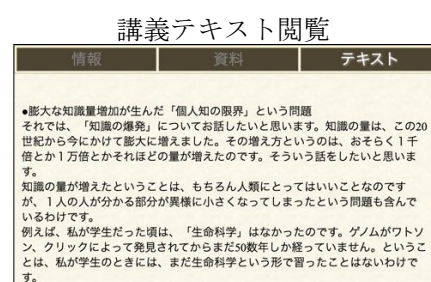
提供開始日：平成 26 年 3 月 17 日

対応機種：NTT ドコモの iPhone、Android スマートフォン、タブレット

アプリは Android のみ対応。4 月上旬公開予定、初期一部機種のみ対応。

ご利用方法：d メニュー>メニューリスト>辞書・語学・学習

#### ■ サービスイメージ



※Android は、Google Inc. の商標または登録商標です。

※iPhone は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

※「d メニュー」「スゴ得コンテンツ」は株式会社 NTT ドコモの商標または登録商標です。

※その他本文中に記載されている会社名、製品名、サービス名等は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

※上記の情報は、発表日現在のものです。仕様、サービス内容、お問い合わせ先などの内容は予告なしに変更されることがありますので、あらかじめご了承ください。

※画像使用の場合は、必ず当社までご連絡ください。

以上

本件に関するお問い合わせ先  
イマジニア株式会社  
モバイルメディア事業本部 和田・河野  
TEL 03-3343-8847 FAX 03-3343-8915  
E-mail promo@imagineer.co.jp

(別紙)

■出演講師一覧 (五十音順 2014年3月17日時点 一部予定含む)

石川 好	作家
伊藤 元重	東京大学大学院 経済学研究科 教授
植田 和男	東京大学大学院 経済学研究科 教授
大竹 美喜	アフラック (アメリカンファミリー生命保険会社) 創業者 最高顧問
岡崎 久彦	NPO 法人 岡崎研究所 所長 元駐タイ大使
小宮山 宏	株式会社三菱総合研究所 理事長 前東京大学 総長
齊藤 健	衆議院議員 自由民主党農林部会長
齊藤 鉄夫	衆議院議員 公明党幹事長代行
佐高 信	評論家 週刊金曜日 編集委員
ジェラルド・カーティス	コロンビア大学 政治学部 教授
島田 晴雄	千葉商科大学 学長
下村 博文	衆議院議員 文部科学大臣
曾根 泰教	慶應義塾大学大学院 政策・メディア学科 教授
樽床 伸二	前衆議院議員
野田 佳彦	衆議院議員 前内閣総理大臣
原 丈人	内閣府参与 国連経済社会理事会特別諮問機関 アライアンス・フォーラム財団 代表【元大使】
星 浩	朝日新聞 特別編集委員
堀江 重郎	順天堂大学 大学院 医学研究科 泌尿器外科教授
前原 誠司	衆議院議員
村井 嘉浩	宮城県知事
山内 昌之	東京大学 名誉教授
若宮 啓文	公益財団法人 日本国際交流センター シニア・フェロー 前朝日新聞主筆

■配信中講義 その1 (2014年3月17日時点)

<p>資源・エネルギー・環境・社会システム</p>	<p>小宮山宏          島田晴雄 曾根泰教</p>	<p>課題先進国としての日本  豊かさから生まれた課題～地球規模の環境問題と人工物の飽和  豊かさから生まれた課題～高齢化  知識の爆発  量から質へ～「プラチナ社会」実現にむけて  エネルギー自給国家の実現に向けて  「都市鉱山」の可能性－日本の資源課題解決はリサイクルにあり  女性の活用－子育て支援  セブンマイナプラン ～平均寿命と健康寿命の差～  インターネットのもつ大きな力：われわれは、Good Questionをつくり、Good Answerを引き出したい</p>
<p>金融・経済・財政・投資</p>	<p>島田晴雄          伊藤元重       植田和男 原文人    大竹美喜</p>	<p>アベノミクスの成果とリスク (1) 第一の矢：金融緩和の効果とリスク  アベノミクスの成果とリスク (2) 第二の矢：積極財政と財政再建の難しさ  アベノミクスの成果とリスク (3) 第三の矢：成長戦略と構造改革  安倍政権の成長戦略について～三つのアクションプランとその成果～  難航するTPP交渉～膠着状態の経緯と原因、今後の展望を考える～  アベノミクス ～第3の矢は如何に投資を引き出すかがポイント  グローバル経済の動向 ～米国は強く欧州は安定、問題は新興国  TPPの本質はグローバル化 ～日本経済の活力に  FEDの金融政策、米国株価から見る日本経済の今後  「公益資本主義」の確立に向けて (1) 「株主重視」の考え方と日本のとるべき道  「公益資本主義」の確立に向けて (2) 社会貢献や人生観、経済システムから日米の違いを読み解く  欧米の金融資本主義に対する警鐘</p>
<p>外交・国際情勢・安全保障</p>	<p>石川好          若宮啓文          岡崎久彦          島田晴雄          ジェラルド・カーティス</p>	<p>なぜ「中国は一つの国なのか」  なぜ「中国には巨大な政治権力が必要なのか」  なぜ「朝貢が中国外交の基本になったのか」  なぜ「中国共産党は支配できるのか」  なぜ「中国は「歴史認識」にこだわるのか」(1)  なぜ「中国は「歴史認識」にこだわるのか」(2)  なぜ「日中関係」はうまくいかないのか  文化的側面からの日中のズレ  中国にとって国境問題とは何か  靖国神社の参拝がなぜ問題になるのか (1) 安倍首相の靖国参拝と国際的波紋  靖国神社の参拝がなぜ問題になるのか (2) 「私的」にこだわった三木首相の参拝  靖国神社の参拝がなぜ問題になるのか (3) 中曽根首相の公式参拝とその中止  靖国神社の参拝がなぜ問題になるのか (4) 小泉首相の参拝と解決への道  靖国問題の歴史的経過を振り返る (1) 1世代で戦争の記憶は消える  靖国問題の歴史的経過を振り返る (2) 火を付けたのは日本  米国とイランの秘密交渉が与える影響力  沖縄問題を考える (1) 普天間基地移転問題の発端と日米の思惑  沖縄問題を考える (2) 橋本・クリントン会談と名護市民投票  沖縄問題を考える (3) 名護市長との議論と鳩山首相の発言  沖縄問題を考える (4) 沖縄の歴史：琉球王国と明、明治時代  沖縄問題を考える (5) 沖縄の歴史：太平洋戦争  沖縄問題を考える (6) 沖縄の歴史：戦後の沖縄と安全保障の考え方  いまアメリカが日本に問う (1) 靖国参拝と歴史・外交認識  いまアメリカが日本に問う (2) 誤解を招きがちな首相の表現・言語</p>

※講義内容・タイトル等は一部変更となる可能性があります。

■配信中講義 その2 (2014年3月17日時点)

政治・行政	<p>曾根泰教</p> <p>島田晴雄</p> <p>星浩</p> <p>野田佳彦</p> <p>岡崎久彦</p> <p>若宮啓文</p> <p>佐高信</p> <p>斉藤鉄夫</p> <p>樽床伸二</p> <p>齋藤健</p> <p>村井嘉浩</p>	<p>政界再編の異なる考え方</p> <p>政党をどう見るか：日米の違い</p> <p>「保守主義」の分類とその尺度について</p> <p>政権交代時代のリーダー</p> <p>日本のビジョンの二つの考え方</p> <p>二つのビジョンの観点：少数のトップと社会全体の違い</p> <p>政権交代とねじれ国会</p> <p>農業改革と規制改革の進捗状況を評価する</p> <p>日本政治の俗説に反論する (1)小選挙区は悪い制度なのか</p> <p>日本政治の俗説に反論する (2)対立軸はできないのか</p> <p>Q. 政権を担うということはどういうことか</p> <p>Q. 社会保障と税の一体改革のために民主党を敵に回した。なぜそれができたのか</p> <p>Q. 政治の世界に入って影響を受けた人や目標としようと思った人は</p> <p>Q. 外交で各国のトップと会談してきた際のエピソード、印象に残った人は</p> <p>Q. 天皇制、霞ヶ関文化、日米同盟の3つを軸として守ろうと考えたのはいつ頃からか</p> <p>Q. 中選挙区制と小選挙区制の違いはなにか？小選挙区は文化が違うものを日本に植え付けたのではないのか</p> <p>Q. なぜ政治家を志したのか。</p> <p>日米同盟の重要性を考える</p> <p>安倍総理の保守主義と指導力</p> <p>政治家としての才覚～安倍晋三と歴代の政治家たち～</p> <p>安倍首相と祖父・岸信介氏のDNA (1)対称的な安倍首相の二人の祖父</p> <p>安倍首相と祖父・岸信介氏のDNA (2)岸氏の影を追う安倍首相</p> <p>安倍首相と祖父・岸信介氏のDNA (3)岸氏に学ぶべきこと</p> <p>失われている「保守の知恵」～友好の井戸を掘った人たち(1)-1 保利茂</p> <p>失われている「保守の知恵」～友好の井戸を掘った人たち(1)-2 保利茂</p> <p>失われている「保守の知恵」～友好の井戸を掘った人たち(2) 松村謙三</p> <p>失われている「保守の知恵」～友好の井戸を掘った人たち(3) 石橋湛山</p> <p>失われている「保守の知恵」～友好の井戸を掘った人たち(4) 田中角栄</p> <p>公明党立党の原点</p> <p>なぜ政治の道を志したのか</p> <p>私が政治家を志すに至った原点の言葉</p> <p>私の政治家人生を支えた教え</p> <p>ジェネラリストの巨星・原敬</p> <p>創造的復興 ～震災から3年、民間活力とリスク予想に基づく宮城の挑戦～</p> <p>県知事として大切にしていることー「自分が前に出ていく」</p>
歴史・思想	山内昌之	<p>中東を理解するために</p> <p>技術と民生から見た明治維新 第1回：遠藤謹助</p> <p>技術と民生から見た明治維新 第2回：山尾庸三</p> <p>技術と民生から見た明治維新 第3回：井上勝</p>
教育・リーダーシップ論	<p>小宮山宏</p> <p>山内昌之</p> <p>下村博文</p> <p>島田晴雄</p> <p>大竹美喜</p>	<p>日本が成し遂げた四つの偉業</p> <p>リーダーと教育者</p> <p>若者に志を持たせるために</p> <p>道徳教育の要ー「志を持つ」ということ</p> <p>私の東京オリンピック体験”誇りと感動”</p> <p>歴史を知り、偉大なる先人に学び、真のリーダー像を考える</p>
医療・介護・社会保障	堀江重郎	在宅医療
メディア論	<p>小宮山宏</p> <p>島田晴雄</p>	<p>1話10分のハイクオリティメディア「10M TV オビニオン」</p> <p>ニューメディアの誕生：マルティン・ルターへの宗教改革にかかわらしめて</p>

※講義内容・タイトル等は一部変更となる可能性があります。